



ワクチン陰謀論とワクチン全能論

<https://l-hospitalier.github.io>

2021.2

感染対策の基礎知識

#277

【近代医学】ロベルト・コッホ、ルイ・パスツール、イグナツ・ゼンメルワイスらにより感染症理解が進みジェンナーの種痘も有効であった。全体主義^{*1}の勃興や優生思想^{*2}の広がりや社会を巻き込む無意味な医学的措置もあった。近年の薬品副作用を主とする薬害事件は ①サリドマイド ②コラルジル ③キノホルム ④トロトラスト ⑤血友病の AIDS ⑥脳血管代謝改善薬 ⑦ソリブジン ⑧イリテカノン ⑨イレッサなどの医原病 (iatrogenic disease) の歴史がある。科学的根拠や統計的データに基づかない自己流の単純経験主義 (科学的根拠に基づく知見を受容しない態度) もトランプのクロロキン (https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/topics/2019ncov/covid19_casereport_200312_5.pdf) や認知症の「河野メソッド」など標準治療でないサプリメントの使用を推奨する医師も増加。

【現代の臨床医学、医学研究の問題点】フランス革命後には大学に依拠し、病人の診療より犬の肝臓からグリコーゲンの抽出に熱中したクロード・ベルナールを代表とする「医学者」と保有する知識が市井の床屋と全く変わらない「臨床医」の両極端のはざまに困ったフランス国民は執政政府に働きかけ「普通研修によって資格ありと証明された医師を集める」「医業に従事する自由を制限する規定を設ける」を実現させ、ヨーロッパで【臨床医学の誕生】を実現した^{*3}。臨床医学は経験に基づく伝承的技術でありながら、知的好奇心を背景とする実験科学的な面を併せもつ未完成技術。現在は妥当とされる治療法が新知見の集積の結果、誤謬に満ちた偏見に基づくものであったと否定された例は枚挙にいとまがない。科学的側面を代表する「査読システムを持つ科学論文出版システム」でもニューヨーク大の物理学者アラン・ソーカルが 1994 年「適当な難解な述語を適当な順序で組み合わせ、一見新規性に満ちた論文」が権威ある社会学のジャーナルに受理され、著者自身が「なにを言っているのかわからない」論文が「難解だが重要な論文」として出版されたソーカル事件 (Social hoax) や、1998 年ランセットの 3 種混合ワクチンは自閉症を増加というデータ完全捏造論文も掲載された。後者はその後 retract され著者は医師資格剥奪。代表的な科学雑誌「Nature」が 400 年の生物学の常識を覆す小保方論文を掲載、その後 retract した事件。京都府立大、千葉大、名大、東大を巻き込んだディオバン事件。最近では主任教授がデータをでっちあげ、学長が校正をした「名誉著者」として参加した弘前大の VB₁₂ の投与が骨折を 1/5 に減少させるという論文など医学関係論文の黒歴史は枚挙に暇がない。

【医療施設での現状】医療施設で感染症のアウトブレイクがあると、必ず感染予防担当部署から予防ワクチン徹底論が出てくる。これらの大部分は統計学的に優位な差異のあるデータがないものが多く、大部分は担当者の知識不足と恐怖心からなるヒステリックな反応で「やるだけのことはやった！」という虚栄心を満足させるのが目的。有効性や患者、予防措置対象者の不利益、人権は全く無視され、言い出した人の責任や法的な問題点は看過される。この動きに対し【サイエントロジー、ホメオパシー、東洋医学】が対抗勢力として出現。漢方は日本、韓国、中国だけでなく米国でも広範な広がりを見せている。漢方については、含有成分の分析、定量、効果のランダム化された検証がなく、薬理学的検定を使うことができない。その使用基準はもっぱら使用者の個人的単純経験論に依存する。「すべてのワクチンは無意味」と言うワクチン不要論^{*4}や、(糖質制限の) 栄養療法、東洋医学、量子力学を応用した治療法、ホメオパシー、アロマセラピー、ナルコノン (サイエントロジーの断薬プログラム) を推奨する立場が影響力を持つのは現代 (西洋?) 医学の黒歴史もその原因の一つ。



サイエントロジー東京

^{*1} ハンナ・アーレント「全体主義の起源 1-3」^{*2} 本来「優性」とは一つのアレル (遺伝子座) に二つの異なる遺伝子が存在したとき、形質の表れやすいほうの遺伝子を優性 (dominant→顕性)。現れにくいものは劣性 (recessive→潜性) と呼ぶ。優生思想は不良の子孫を取り除くというアイデアで、英国統計学の創始者フランシス・ゴルトンに始まり、医学統計での偉大な功績者ロナルド・フィッシャーも推奨し、ナチス・ドイツも政治的に利用した。日本でも「優生保護法」^{*3} ミシェル・フーコー「臨床医学の誕生」^{*4} 内海聡「医学不要論」「精神科は今日もやりたい放題」。